

2010（平成 22）年度在宅医療助成指定公募（前期）テーマ②
「看取りを伴う在宅医療の地域ネットワーク作り」完了報告書

「八尾市における看取りを伴う在宅医療の地域 ネットワーク作り」

申請者：古川智恵

所属機関：八尾市立病院

職名：看護師

所属機関所在地：大阪府八尾市龍華町 1-3-1

電話 072-922-0881

提出年月日：平成 23 年 8 月 31 日

1. 八尾市における在宅医療ネットワーク作りの概要

八尾市は、大阪市に隣接する人口約 27 万人の中規模都市である。現在高齢化率は 22% 程度であるが、今後急速に高齢者が増加することが予測される。

これらの高齢者が在宅医療を受けて、地域で安心して生活するためには、病院と在宅医療を担う施設や訪問看護ステーションとの連携が重要であり、継続したケアを行っていく必要がある。

しかしながら、地域医療機関に勤務する看護師や医療職が、病院で行われている治療やケアについて学習する機会は少なく、医療格差によりケアの継続が困難な場合があった。

そこで、病院職員が在宅医療の現状を理解し、求められるケアとはなにかを考え、一方、在宅医療従事者が、最新の医療について検討できる機会を設け、共に、八尾市の在宅医療について検討できるネットワークの構築に向けての取り組みを行った。

2. 活動内容

八尾市立病院、在宅医療支援部会でコアメンバーの選出方法について検討した。
市内の病院、訪問看護ステーションに案内を送付し、メンバーを募集した。

第 1 回八尾市在宅看護を考える会 平成 22 年 5 月 20 日 18 時 30 分～20 時 30 分
八尾市立病院 大会議室 参加者 14 名

<内容>

- ・参加者の地域医療連携に関する考えや今後の在り方について検討した。

第 2 回八尾市在宅看護を考える会 平成 22 年 7 月 29 日 18 時 30 分～20 時 30 分
八尾市立病院 大会議室 参加者 13 名

<内容>

- ・最新の褥瘡対策について勉強会を行った。

第 3 回八尾市在宅看護を考える会 平成 22 年 11 月 11 日 18 時 30 分～20 時 30 分
八尾市立病院 大会議室 参加者 17 名

<内容>

- ・在宅 IVH パスを作成するため勉強会を行った。

セミナー①

市内の病院職員を対象とした、退院調整セミナーを平成 23 年 1 月 14 日に開催した。

講師 高槻赤十字病院 退院調整看護師長 原田かおる先生

参加者 45 名 (院外 10 名)

セミナー②

市内在住の医療職員を対象とした、医師、看護師、薬剤師の医療連携への取り組みのセミナーを2月23日に開催した。

講師 八尾市立病院 薬局長 但馬重利 先生

講師 松尾クリニック訪問看護ステーション来夢 統括所長 矢田みゆき先生

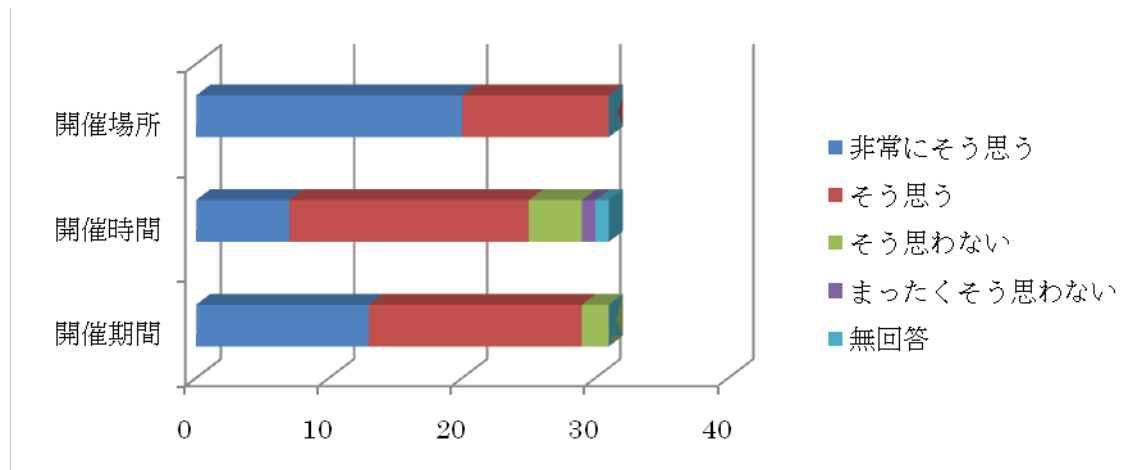
講師 前田クリニック 院長 前田修先生

参加者 43名（院外38名）

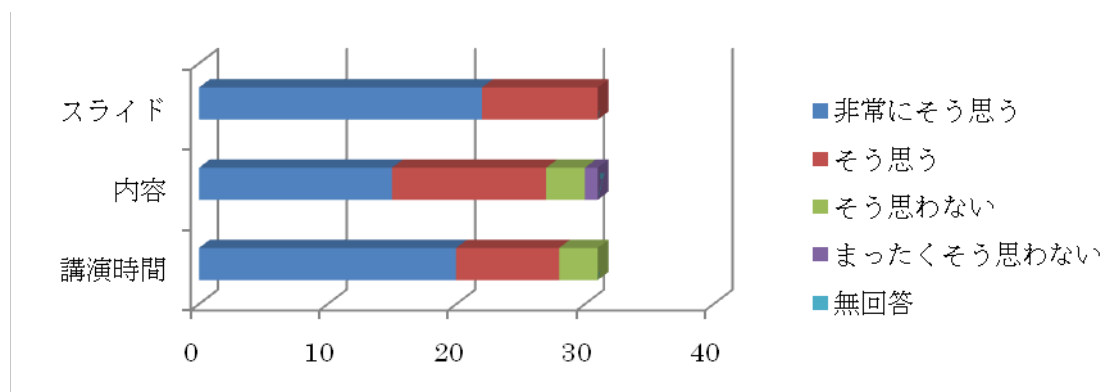
第1回八尾市在宅看護カンファレンス アンケート結果

回収 31/43 枚（回収率 72.0%）

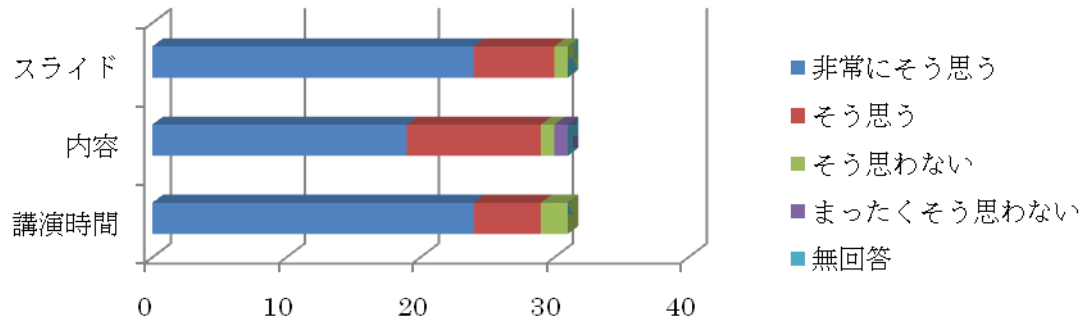
今回のセミナーについて



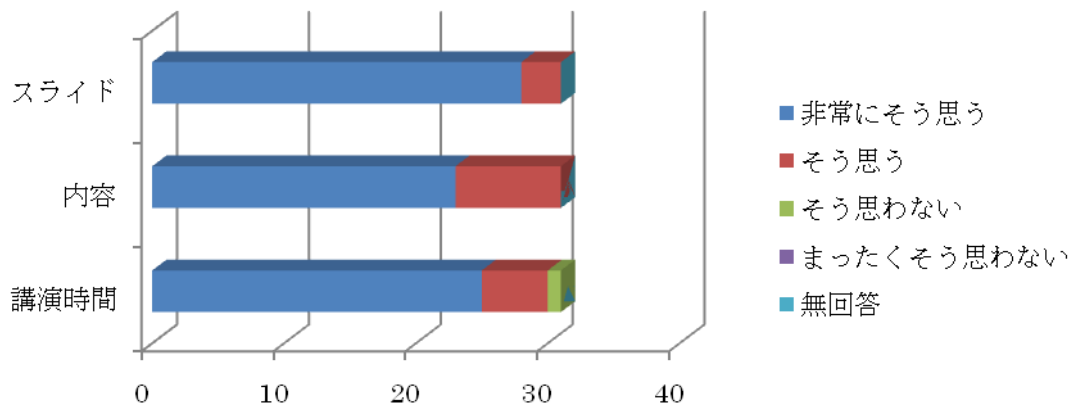
講演1について



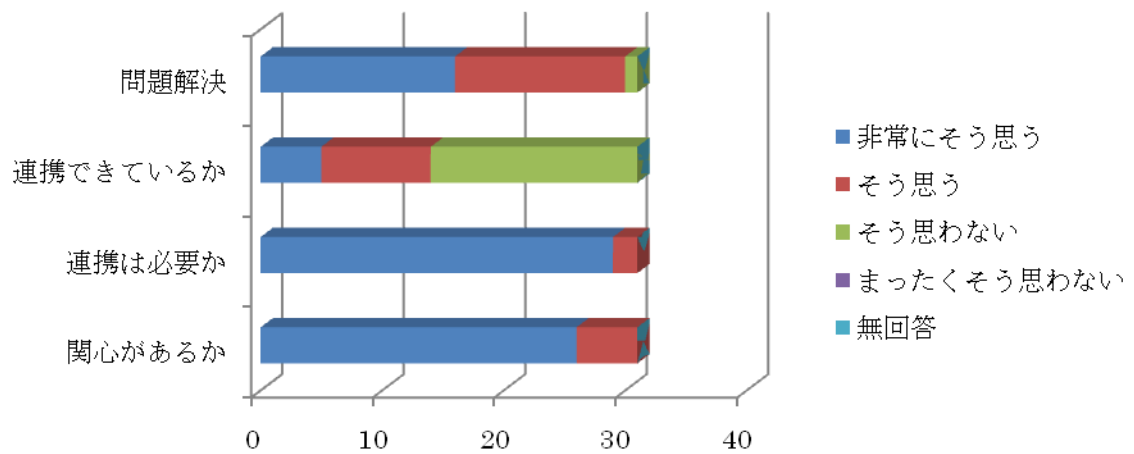
講演 2



講演 3



在宅看護について



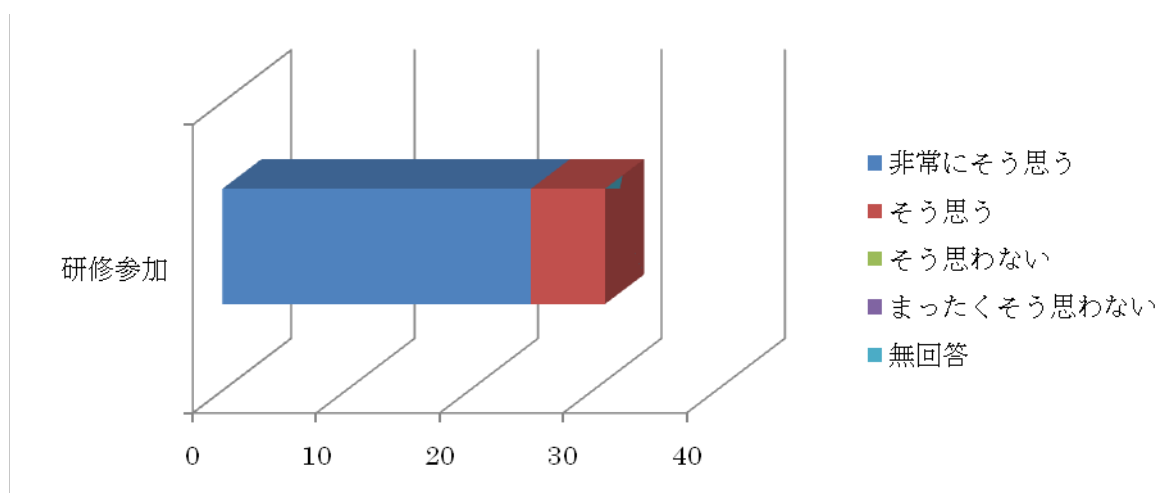
<良かった点>

- ・ユーモアを交えての講義は眠気が覚めた (病院：40代看護師)
- ・薬剤についての病院とかかりつけ医との連携について新たな気持ちを持った (病院：20代看護師)
- ・すぐには役に立たない内容ではあるが、回を重ねていくことが大事だと思った (病院：40代看護師)
- ・前田先生のお話が、正直ストレートでよかったです (病院：40代看護師)
- ・ターミナルケアについての講義 (40代看護師)
- ・全体的にわかりやすく、改めて考えることができ問題も見えてよい機会となった (病院：30代看護師)
- ・前田先生の話はわかりやすかったです (病院：30代看護師)
- ・在宅緩和ケアの内容 (病院：30代看護師)
- ・前田先生のお話は大変勉強になりました。死を考える医療もあるんだということ、病院では生かすことを考えての医療しか考えていませんでしたが、よりよい死を提供する医療があるということをととても考えさせられました。またお話を聞きたいです。ありがとうございました。(病院：40代看護師)

<悪かった点>

- ・院内薬局についてはよくわからなかった (40代看護師)
- ・医療用語が多くてわかりにくかった

今後このような研修に参加したいか



どのような講義にかんしんがありますか

- ・下肢潰瘍 5
- ・疼痛緩和 4
- ・褥瘡管理 7

- ・緩和ケア 2
- ・独居等社会的弱者について
- ・筋力維持、ADL 低下防止、DM コントロール
- ・在宅での栄養管理

セミナー③ 平成 23 年 3 月 26 日

オストメイト患者会

講師 大阪府オストミー連合会会長：六埜博治

講師 八尾市立病院 WOC ナース 古川智恵

参加者 オストメイト 15 名

医療職 25 名

セミナー④ 平成 23 年 6 月 30 日

最新の糖尿病治療について

講師 八尾市立病院 糖尿病内科 医長 星 歩 先生

講師 八尾市立病院 栄養科係長 黒田 昇平 先生

3. 活動の成果

今回の取り組みにより、病院職員の在宅医療への関心が高まり、退院調整の課題や地域医療連携室の役割を見直す機会となった。また、在宅医療従事者からは、病院で行われている治療について学習する機会ができ、ブラッシュアップできたとの意見が多かった。

患者会の開催については、患者さんがどのような在宅医療を望んでいるかを伺うことができ、地域で在宅医療に取り組んでいく必要性を再認識した。

4. 今後の課題

今回、病院と在宅医療関係者がともに学ぶ機会を得て、相互のコミュニケーションの大切さを学んだので、共に学ぶ機会を継続し、顔の見える地域の連携に取り組んでいきたい。

5. 「八尾市における在宅医療ネットワーク作り」を終えて

当院では、これまで入院患者さんの退院が決まってから、慌ててケアマネージャーや訪問看護師が病院に来院し、退院調整を行っているという状況でした。しかし今回、「ネットワーク作り」に取り組んで、これまで一方通行であった関わりが、お互いがどのような問

題を抱えているのかを話し合い、参加者は双方の問題点を理解できたのではないかと思います。

これまで、退院指導のパンフレットを作成しても、内容が在宅医療に適していないために、在宅で有効に活用してもあえないということもありました。しかし、今回作成した在宅IVHパスや在宅褥瘡連携パスは、双方の代表者が検討を重ねて作成したので、より活用しやすいものになったのではないかと思います。

今後も継続して、病院と地域が一体となってより良い在宅医療を目指していきたいと思っています。

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団助成